

3 生涯学習

～学ぶ意欲を持つ市民が学習することのできる機会や場が得られているまち

<A 基本計画の目標>

地域における人と人との出会い、ふれあい、学び合いを推進し、地域団体や市民団体の活動を支援する中で、市民同士のつながりと支え合いを高めるための機会を設けるとともに連帯感やコミュニティ意識の醸成を図ります。

学習機会の提供にあたっては、個人の需要と社会の要請のバランスを保つとともに、生きがい・教養・人とのつながりなどの追求と職業的知識・技術の習得の調和を考慮します。

市民が主体的に学習活動を展開できる場の確保と利用しやすく質の高い魅力的な施設づくりを進め、いつでも、どこでも、だれもが気軽に学習できる学習環境を整備・充実します。

多様で幅広い学習情報の収集・提供や学習相談体制の整備、学習コーディネーターなどの人材育成を行い、若者を含めあらゆる層の市民の生涯学習を総合的に支援していきます。

学習した成果が就業や社会参加など、さまざまな場面で発揮できるよう民間教育事業者や関係機関と連携を図りながら、職業能力の向上につながる学習機会の提供に努めます。

あらゆる場面において市民参画ができる機会・場の拡充と市民、行政、民間教育事業者や関係機関が一体となった効率的・効果的な推進体制を整備します。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	54.8 %	54.6 %	53.4 %	55.6 %	54.3 %	↓

<C 目標達成に向けた24年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【教育部】

市民ボランティア団体である「鎌倉市生涯学習推進委員会」に生涯学習推進事業を委託することにより、様々な世代を対象とした市民ニーズに即した各種講座・イベントを企画・実施することができました。また、生涯学習情報誌「鎌倉萌」を発行するとともに、ホームページ上にも掲載することで、市の主催事業のみならず、様々な団体による講座・イベントなどの情報を広く周知することができました。

また、生涯学習プランの進行管理について、各課に照会を行い、状況把握に努めました。

◎

学校や地域住民、おはなしボランティアとの協力により、より一層子どもの読書環境整備をはかるため、第二次鎌倉市子ども読書活動推進計画を策定しました。

近代史資料室担当を新設し資料収集体制の充実を図りました。

電子図書館実証実験でデジタル化した貴重書等の中央図書館内での閲覧を開始し、資料保存と公開に努めました。

所蔵資料の充実に繋げるため、図書館振興基金のPRに努め、雑誌スポンサー制度等を整備しました。

◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【教育部】

<p>・子ども、若者、老人が共に過ごせる時間と空間を作り出して頂きたい。</p>
<p>・基本計画の目標の一つである「連帯感やコミュニティー意識の醸成」についての活動についても、もう少し検討すべきである。</p>
<p>・生涯学習センターは、鎌倉と各地域に計5館あるが、いずれも利用率が高く、部屋が取りにくい等の課題がある。</p>
<p>・生涯学習センター利用者が大幅に増加しており、その要因の把握が必要である。</p>
<p>・改訂された生涯学習プランが効果的に実践されることを望む。</p>
<p>・若い世代へのイベントなど、新規開拓に期待する。</p>
<p>・団塊世代の退職者が大量に見込まれるが、本事業への協働・参画は考えられるか検討すべきである。</p>



<p>地域における世代間交流の促進を進めています。施策の一例として、囲碁・将棋教室により、世代間の交流を深める講座を実施しました。 また、放課後子ども教室の実施により、世代を超えたつながりをつくる場を設けています。今後も引き続き関係各課の事業状況の把握を行い、世代間交流を促進させていきます。</p>
<p>市が主催する講座・イベント等の開催結果を検証するとともに、その結果を踏まえ、企画・実施している鎌倉市生涯学習推進委員会と緊密な協議・調整を行っていくことで、より質の高い事業を展開していきます。</p>
<p>各センターの利用率については、場所・時間帯によってばらつきもあり、利用率の平準化については、課題となっています。</p>
<p>生涯学習センターの利用状況を統計的に分析し、把握することにより、利用者にとって公平で利便性の高い施設運営をめざしていきます。</p>
<p>平成23年4月に改訂された生涯学習プランを効果的に実践するため、プランに掲載された様々な施策を毎年度適正に進行管理していきます。</p>
<p>若年層や主婦などをターゲットとした市主催講座・イベントを開催する際には、できるだけ参加しやすい日時にするなど、今後とも研究・検討を進めます。</p>
<p>市では、生涯学習に関する「指導者登録」という制度があり、退職者についても、様々な経験や知識を活かし、指導者として市民等の生涯学習の機会へ役立てるような仕組みとなっています。 また、鎌倉市生涯学習推進委員会への参加も募集しており、各種講座やイベントの企画運営に協力いただくことも可能です。</p>

<E 24年度未達成事業の課題・問題点など>

【教育部】

<p>鎌倉生涯学習センターは建築から30年を経過し、施設の老朽化が進行しており、今後は計画的な予防修繕が必要となりますが、厳しい財政事情により、安全確保のための緊急修繕しかできていないのが現状です。</p>
<p>※未達成の理由<支障となった理由></p>

<F 今後の展開(取組方針)>

【教育部】

・生涯学習センターによる自催講座の企画・実施・評価にあたり、外部の方の意見を聞くこと等を検討します。また、講座の企画運営を行っている鎌倉市生涯学習推進委員会の活動について、一層の周知に努めます。
 ・図書館との連携を図っていくための具体的な手法を検討します。

<G 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度 目標値	H27年度 目標値
生涯学習センター利用者数(+)	中央、腰越、深沢、大船、玉縄の5地域にある生涯学習センターの、年間利用者数の合計	544,960 人	619,084 人	581,424 人	644,560 人	583,078 人	551,000 人	556,000 人
図書館資料の年間貸出数(+)	中央図書館及び地域館の図書館資料の年間貸出数の合計	1,241,035 冊	1,523,736 冊	1,593,449 冊	1,560,420 冊	1,519,789 冊	1,303,000 冊	1,363,000 冊
図書館の利用度(+)	ここ1年間で図書館を利用した市民の割合	42.8 %	40.8 %	41.0 %	38.3 %	40.8 %	45 %	48 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	472,284千円	468,275千円	398,586千円	393,716千円	378,700千円			
	(国・県)	3,068千円	9,943千円	508千円	14,651千円	480千円			
	(負担金等)	78,047千円	74,823千円	66,480千円	71,347千円	70,262千円			
	(一般財源)	391,169千円	383,509千円	331,598千円	307,718千円	307,958千円			
	人員配置数	38.6人	36.6人	36.8人	34.8人	32.2人			
	人件費 (B)	347,774千円	329,371千円	320,554千円	300,540千円	257,247千円			
	総事業費(A+B)	820,058千円	797,646千円	719,140千円	694,256千円	635,947千円			
	対前年比		97.3%	90.2%	96.5%	91.6%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・鎌倉市生涯学習推進委員会に事業を委託し、様々な世代を対象とした講座やイベントが開催できており、継続的運営を行っている。これにより市民のニーズに即した各種の事業が成果を上げている。
- ・世代間交流、若年層や主婦を対象とした多世代のニーズに答えた取組などが見られる。
- ・貴重書などの一部デジタル化による閲覧を始めた。
- ・生涯学習情報誌「鎌倉萌」を発行するとともに、ホームページ等により、様々な団体による講座・イベントなどの情報を広く周知している。
- ・生涯学習プランの進行管理について、各課に照会を行う等、他課との連携を保ちつつ事業を推進している。



課題・提言

- ・満足度が50%台と横ばいで、市民の関心が未だ行き渡っていない。若者を取り込む工夫も必要である。
- ・鎌倉生涯学習センターの施設の老朽化対策が必要である。築30年の割には老朽化しており、予防修繕等が必要である。
- ・生涯学習センターと図書館との連携を図り、学習の場を一層効率よく、且つ、多面的な活用を図る必要がある。
- ・各地区の生涯学習センターは、地域の世代間交流や地域福祉の場所として充実させるべきである。
- ・図書館の役割も大きく変わってきた現在、民営化の検討も必要である。
- ・講座・イベント終了後のアンケート調査結果からどのような改善を行っているのかを記載すべきである。
- ・「指導者登録」された市民が、どのような活躍をされているのかについて、その内容を記載すべきである。
- ・「制度がある」ということだけでは無く、その制度によってどのような具体的な効果が現れているかについて記載すべきである。
- ・学校教育と生涯学習の間に生涯教育の存在が必要と考える。趣味や生き甲斐対策の延長のみで生涯学習を捉えるのではなく、平和・人権、男女共同参画社会、多文化共生社会、健康福祉等と連携し、親世代の再教育の場にも貢献すべきである。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、**良好であった。**